

草原構成種「ヨモギ」の地域性系統についての見解

「自然公園における法面緑化指針（環境省・2015年）」では

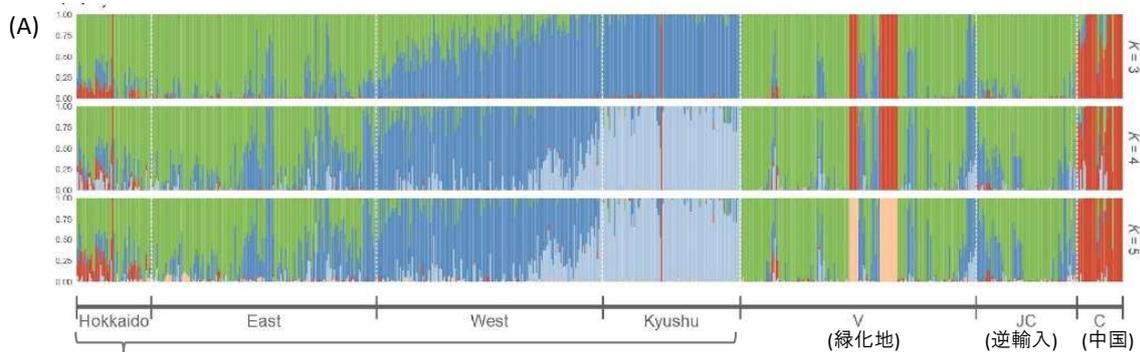
- ・地域固有の生態系に配慮し、植物を導入する場合は原則として地域性系統の植物のみを使用すること（4.1 前提条件）。

【解説編】

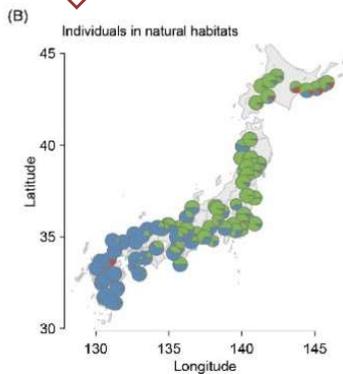
- 地域性系統の植物とは、在来植物のうち気候や地形などの影響により、遺伝子型を共有する集団で、遺伝子型とともに形態や生理的特性などの表現型や生態的地位にも類似性や同一性が認められる集団をさす。

◎ 最新のヨモギの遺伝的地域区分（北海道～九州地方）

2022年9月時点の科学的知見に基づいた、ヨモギについての見解です。



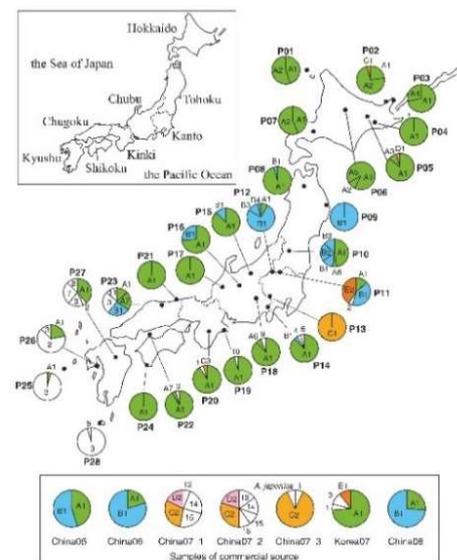
(自然生育地) ※1 Wagatsumaほか (2021) *Revegetation in Japan overlooks geographical genetic structure of native *Artemisia indica* var. *maximowiczii* populations*. *Restoration Ecology*, 30(7), e13567. 1-10. から fig.1 (部分)
ヨモギの遺伝的構造と多様性 (Admixtureによる解析結果で推定された個体別の祖先集団の割合)



※1からfig.1 (部分)
自然生育地集団の祖先集団の割合

◎核DNAの解析結果から、種子の移動については、4地区(北海道、東日本、西日本、九州)に分けることができる。ただし、北海道には自生しないという説もある。

- ・阿蘇地域は、九州地区に属する。



※2 Shimonoほか (2013) *Phylogeography of mugwort (*Artemisia indica*), a native pioneer herb in Japan*. *Journal of Heredity*, 104(6), 830-841. から fig.2
日本の国立公園の28集団における葉緑体DNAハプロタイプの地理的分布 (円グラフ内の同じ色は、ハプロタイプが同じグループに属することを表す。)
◎主に九州の個体が祖先系統であると推定された。

阿蘇地域で採取されたヨモギを、同地域内で自然再生のために利用することについては、基本的に問題ないと考えられます。



URL : http://www.jsrt.jp/tech/ASO_project.html
E-mail : aso-pro@jsrt.jp

日本緑化工学会
生態・環境緑化研究部会